

令和3年度京都市立塔南高等学校 学校経営方針

校長 小野恭裕

1 教育方針

知性を尊び個性を伸長する教育を通して、高い学力と豊かな人間性を身に付けさせ、社会で活躍・貢献できる有為な人材を育成する。

- ① 知性を尊び、個性を伸長して、自らの進路を実現する、創造的で主体的な人間を育成する。
- ② 心身ともに健康で、社会との関わりの中で自己の在り方を追究する、誠実で心豊かな人間を育成する。
- ③ 豊かな人権感覚とコミュニケーション能力を養って、世界の文化の構築に寄与し、国際社会に貢献する人間を育成する。

2 学校経営の基本方針

【目指す学校像】

生徒・教職員がともに生き生きと輝き、豊かな学びで、人生や社会の未来を切り拓く力をはぐくむ、「活気あふれる面倒見の良い学校」を目指す。

本校は、「新しい普通科系高校」として、旧洛陽工業高等学校唐橋校地への移転・新校創設を控えている。新校は、「多様な分野で社会に貢献する生徒の育成」を学校の最高目標とし、本校の教育風土をしっかりと引き継ぐとともに、京都市南部の核となる学校たることを目指している。全体で一体感を持ちつつ、前向きに協力しながら業務にあたる教職員集団づくりを目指し、新校に円滑につないでいけるように現塔南高校教育を充実・発展させる。

3 本年度の経営方針

- ① 新校に向け、「自分たちが新しい学校を一から作り上げる」という意識をもって調査研究を進める機運を教職員間で醸成し、取組に一層広がりを持たせる。開設準備室における検討状況についても折に触れて報告し、情報共有を図りながら広く意見を出し合って意識と一体感を高めていきたい。
- ② 生徒の学びのモチベーションを高め、ねらいと目標を明確にした、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善に取り組む。来年度から、新しい学習指導要領に基づく教育課程が本格実施となる。観点別学習状況の評価についての研究、指導と評価の一体化を推進する。
- ③ 総合的な探究の時間については、各教科における学びとも一層関連付けながら、地域や企業・大学・研究所など外部とも連携を図りつつ、取組の流れや内容をさらに整理・充実する。
- ④ これまでから、タブレット端末を効果的に利用した学習・指導について実践を進めてきた。今年度入学生からは、個人持ちタブレット端末を導入する。生徒にとっても教職員にとっても効果的で豊かな学びのツールができるよう、一層の研究と積極的な活用を進める。
- ⑤ 生徒の進路保障を最重点課題と位置づける。それぞれの可能性を伸ばし一人一人が夢や希望をもって自己実現を達成できるよう、いつ何を押さえて指導するか、外部変化への対応にもらみながら、塔南の生徒に合った3年間の学びの道筋をしっかりと示しつつ、組織的・計画的に進路指導を行う。「生き方探究パスポート」（本年度入学生からは中学校での記録との接続も含む）も効果的に活用し、それぞれが学びの軌跡や成果を振り返るとともに遠い将来を見通して、自己のあるべき姿を見出せるよう支援する。
- ⑥ 次代を担う生徒たちの豊かな学びに資する教育活動を推進するにあたっては、学校運営協議会や高等学校コンソーシアム京都をはじめとする多くの機関・団体等との協働・連携のも

と、「持続可能」な形で続けられるように留意しながら取り組む。

- ⑦ 生徒一人一人がそれぞれの「善さ」を存分に發揮し、信頼・相手を思いやる心・謙虚な姿勢・やさしさなど「豊かな人間性」を育むようとする。生徒指導においても、生徒の「自ら律する力」を大切にしながら、場と状況に応じた適切な判断や行動を自ら進んでできるようとする。

あわせて、これまで同様、「時を守り」「場を清め」「礼を正す」生徒指導に全教職員で取り組み、「遅刻をしない」「環境整備や美化に力を入れる」「正しい服装をする」「正しい言葉遣いをする」「きちんと挨拶する」ことを全生徒に守らせる指導を継続する。

- ⑧ 部活動や課外のボランティア活動への参加を奨励し、活動内容の充実に努める。

部活動については、「京都市立高等学校部活動ガイドライン」及び「京都市立塔南高等学校部活動運営方針」を順守する。その中で、年間を通して計画的に、また生徒の主体性を重視しながら、学業とのバランスやけが・疲労防止という観点にも十分留意しつつ、活動の量・密度・質の更なる工夫向上に努め、適切な活動時間を設定する。

ボランティア活動については、教職員側から参加を呼び掛けるものも含め、「学校運営協議会」の地域連携部会等とも連携しながら、一層の振興に努める。

- ⑨ 国内外の学校等との交流活動を積極的に行い、視点も常識も異なる多様な人々との触れ合いを通じて生徒の気づき・成長につなげる。その中で文化・伝統の多様性を理解し尊重する態度を培う。また、「E S D (持続可能な社会づくりの担い手を育む教育)」の視点も大切にし、環境、人権、平和等「S D G s (持続可能な開発目標)」で示されている目標にも留意しながら取組を進める。

- ⑩ 集団の中で自他を尊重する意識、多様な特性を持つ他者の生き方を尊重し、ともに支え合える姿勢を育てる。いじめ等の人権侵害を絶対に許さない指導を進め、人権意識を高める取組を推進する。

- ⑪ 生徒の心の内面を多角的・総合的に理解するように努め、気になる生徒、困りを抱えた生徒、課題のある生徒の情報を共有し、時機を逸するこがないよう、組織的な対応に努める。特に家庭環境や精神面に不安を抱える生徒に対しては、担任団と関係分掌が連携を密にし、生徒に寄り添う指導を行う必要がある。また、学校だけでなく警察や児童相談所など関係機関との連携を図りながら、個々の生徒の指導を充実する。あわせて、「特別な支援を必要とする生徒」への対応も充実強化する。

- ⑫ 道徳教育については、生徒が意欲と関心をもって積極的に挑戦する力や、自主性・自律性・自己肯定感を一層高められるよう、さまざまな取組相互の関連性を考慮しながら、すべての教育活動の中で推進する。また、他者を思いやりともに努力する態度、豊かな人間性、生徒が自己を見つめ、生涯にわたって主体的に自己実現を目指す意欲を養い高める。

- ⑬ 教職員が学び合い高め合う「教職員が成長する学校」、また相談し合える風通しの良い職場づくりに努める。効果的・効率的な学校運営を心掛け、会議・連絡・事務処理等の時間短縮を図る。教職員のワーク・ライフ・バランスに留意するとともに、それぞれの年齢や経験、条件等にも十分配慮した職場づくりを目指す。

- ⑭ 今年度の中學3年生は塔南高校最後の入学生、中學2年生は、新校1期生となる学年である。現在の塔南高校における各学科の特色ある取組に加えて、新校での学びやその魅力についても、積極的に広報活動を展開する。あわせて、日々の活動の様子をホームページでこれまで以上に発信するように努める。

- ⑮ 新型コロナウイルスによる感染症拡大防止に向けて、生徒及び教職員の健康と生命を守ることを第一に考えながら、流行状況を常に注視し、必要な対策については、これまでの対応や慣例等にとらわれることなく速やかに実行する。また、生徒自らが「うつさない」「うつらない」ための行動をさまざまな場面でとることができるように、教職員からの組織的・計画的な働きかけを行うとともに、生徒の自主的な相互啓発活動とも連携する。